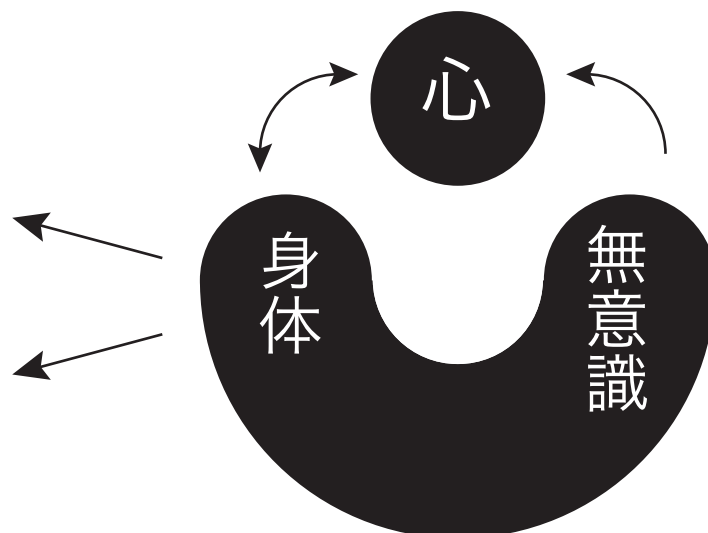


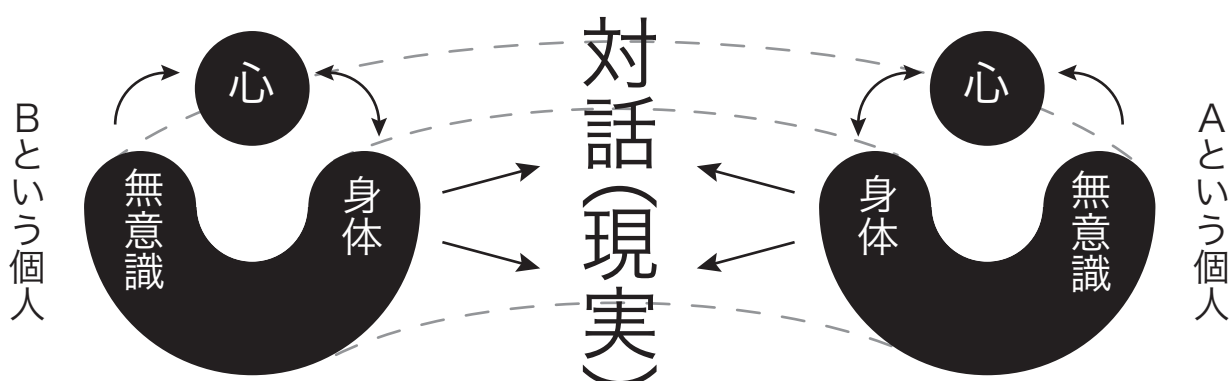
「私」をめぐる三重構造は、実際には「物質」と「無意識」が一体であるため下図のようになる。心（理性）の生み出す「言葉」を超える「無意識」を存在の前提とするのは、東洋的な発想である。



さて、ではメディアとしての身体が交信しようとしている「外界」とはなにか。それが「現実」である。

私は、「現実」とは、複数の人間によって共有されたものだと考える。なぜなら人間とは常にあたらしい自己へと移動しつづける間主体的な存在であり、他者との関わりの中でしか意味を作り出せないからである。

したがって、夢はそれが自分の心の中だけで成長している限り妄想と同じである。他者と共有され、現実へとシフトした時、夢はただの夢想ではなくなる。



つまり現実とは一種の共通感覚であって、主観的な抽象概念である。それは普遍的にあるものではなく、それを共有する構成員によって変わっていく。

「現実」を、他人によって押しつけられ自分の手では動かしようのない「事実」としてではなく、操縦可能な「状態」と考えることのできる人間だけが、本当に現実を動かすのだ。